

由布市
観光基本
計画

『由布市・観光発展策』

～“懐かしき未来”の創造～

<後期計画>

平成28年1月
由布市

はじめに



由布市長

首藤 奉文

私は、「融和・協働・発展」を基本理念とし、由布の市政を担ってまいりました。

特に、まちづくりの推進におきましては、「市民との協働」を第一義に取り組んでおり、観光振興につきましても、観光関係者や市民との協働により、由布市の観光をさらに光輝くものにしたいと願ってやみません。

そのような思いから、観光関係者、市民、行政、それぞれの強みを活かせる由布市全体の観光推進体制づくりなどに力を入れるとともに、本年におきましては、平成23年3月に策定した由布市観光基本計画の見直しを行いました。

由布市が観光に取り組む意義を再確認するとともに、社会経済情勢や由布市観光を取り巻く環境の変化、そして、前期5年間の取組状況等を踏まえて、より強力に由布市観光を推進するための後期5年間の方向性を定めました。

本計画実現のため、観光に携わる方々はもちろん、市民の皆様のご支援、さらなるご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

由布市の観光魅力をさらに磨き上げるため、本計画に掲げましたプロジェクトを進め、広く内外に「由布市の観光」を発信し、交流人口の増大を図って参る所存です。

本計画の策定、見直しにあたり、これまで貴重なご意見、ご指導をいただきました市内外の皆様、また、各種調査にご協力いただきました皆様に衷心より感謝を申し上げます。

平成28年1月

目次

はじめに	1
序 観光基本計画策定の背景と目的	2
1. 計画策定の背景	2
2. 計画策定の目的	2
3. 計画の位置づけと期間	2
第1章 由布市観光の現況と課題	3
1. 由布市の観光動態	3
(1) 由布市の観光市場及び観光客	3
(2) 由布市の観光推進力	5
2. 課題の整理	7
(1) 前期の実施状況、新たな取組	7
(2) 計画課題の再整理	8
第2章 由布市観光基本計画	9
1. 観光推進の基本的な考え方	9
2. 将来目標と基本理念	11
(1) 将来目標	11
(2) 基本理念の設定	11
3. 計画の体系	14
4. 重点的に推進すべき総合プロジェクト	17
第3章 計画の実現に向けた推進体制と計画管理	19
1. 推進体制の段階的整備	19
2. 計画管理の仕組み	21
追 補 地域別観光施策の方向	22

※本計画書は、今後将来目標や基本理念に則り、具体的な事業について、企画・検討を行う際にご活用下さい。

1. 計画策定の背景

由布市は平成17年10月に、挾間町、庄内町、湯布院町の3町が合併して誕生しました。昭和30年代から全国に先駆け地域主導でまちづくりを推進し、今では全国屈指の温泉地として知られる由布院温泉を有する湯布院地域に、黒岳や男池に代表される豊かな自然と農村や庄内神楽等の文化的資源を有する庄内地域、教育・文化・医療・交流・商業施設等の都市機能が集積する挾間地域が加わったことにより、合併効果を生かした様々な可能性が期待されています。

また、年間約380万人の観光客が訪れる観光地でもあることから、由布市民と観光客が「癒しの空間」を共有しながら、観光客にとってはゆっくり滞在できる「訪れて良い町」を、市民にとっては「住み良い町」を形成することが重要な課題となります。

2. 計画策定の目的

観光振興は、地域内外の“ヒト”をはじめとした“モノ”、“コト”との交流や連携によるまちづくりを基本としています。第一次、第二次、第三次産業それぞれが単独で生み出す価値よりも、多様な産業が連携して成り立っている観光産業は、より大きく新しい価値を生み出す“総合産業”として期待されています。

本観光基本計画は、各地域の持ち味を活かした魅力的な由布市観光の形成とともに、観光のみならず農業、商業、工業をはじめとした地場産業の連携による地域活性化のための共通指針として策定します。

由布市全体が一丸となって観光振興を進め、“住んで良し、訪れて良し”の『観光立市』を目指していきます。

3. 計画の位置づけと期間

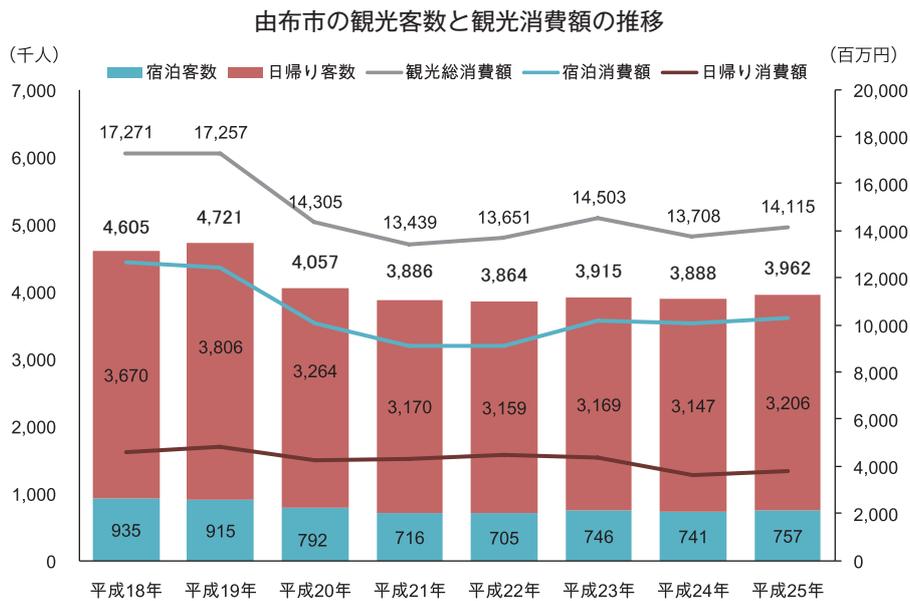
本観光基本計画は、「由布市総合計画」の下位計画であり、同計画が目指す滞在型・循環型保養温泉地の形成に向けた各種施策と整合を図ります。計画期間は、平成23年度を初年度とする10カ年度と定め、5カ年度目にあたる平成27年度を一区切りとしました。計画の進捗状況や社会経済環境の変化等に合わせて、今後も必要に応じて適宜計画の見直しを行っていきます。



1. 由布市の観光動態

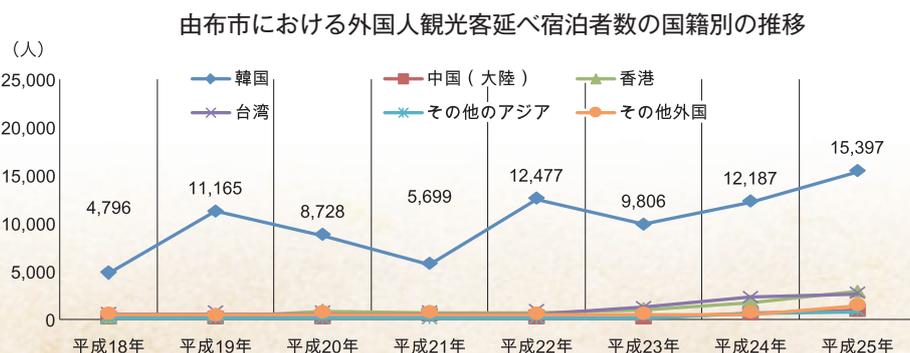
(1) 由布市の観光市場及び観光客

〔由布市の観光客総数及び観光総消費額の推移〕平成19年までは宿泊客90万人前後、日帰り客300万人台後半で推移していましたが、平成20年のリーマンショック後、宿泊客が70万人、日帰り客が316万人まで落ち込みました。総消費額は172億円から134億円へと30億円以上のマイナスとなりました。平成23年以降僅かに回復したものの依然として低調状態にあります。

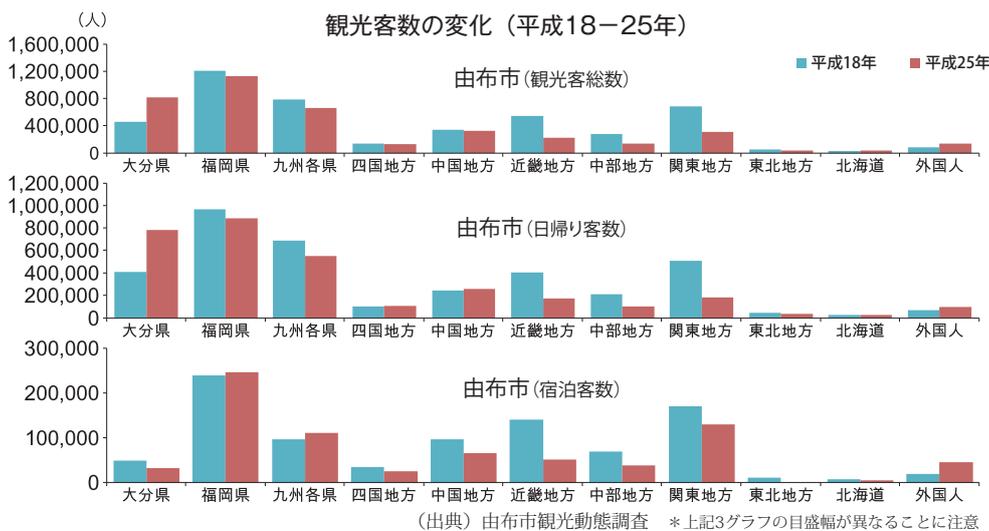


(出典) 由布市観光動態調査及び大分県観光動態調査

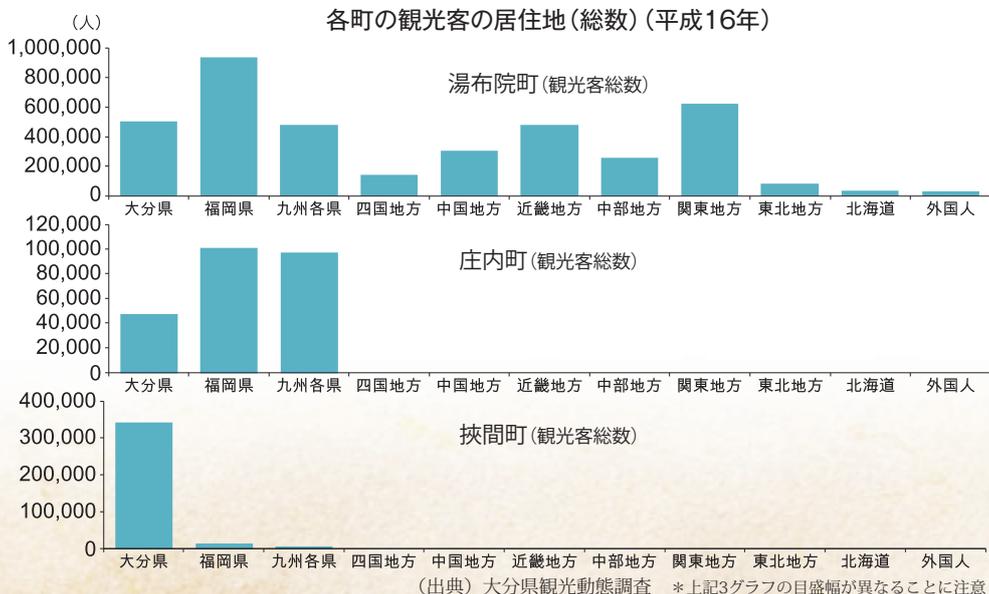
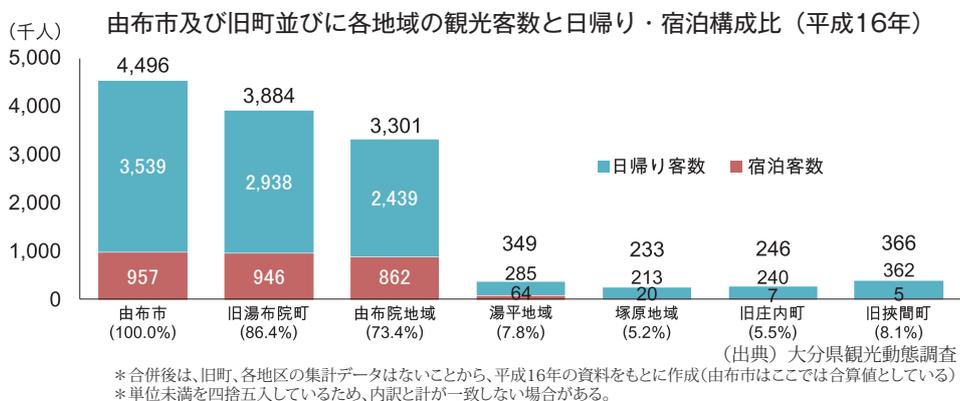
〔由布市の居住地別・国籍別観光客数の推移〕由布市全体では、平成18年と平成25年では、市場が大きく変化しています。日帰り客数は、大分県居住者が倍増したものの、福岡県及び九州各県はやや減少。関東地方、中部地方、近畿地方居住者は半減しています。宿泊客数は、福岡県及び九州各県が僅かに増加していますが、中部地方、近畿地方居住者は半減しています。関東地方は、やや回復傾向にあるものの、平成25年の宿泊客数は平成18年の76.1%です。一方外国人は、観光客総数で見ると、平成25年は平成18年の164.6%増です。外国人観光客の国籍は、平成25年の延べ宿泊者数ベースで見ると、韓国が最も多く15,397人（63.6%）、香港が2,817人（11.6%）、台湾が2,639人（10.9%）と続きます。インバウンド市場は各国ともに増加傾向にあります。



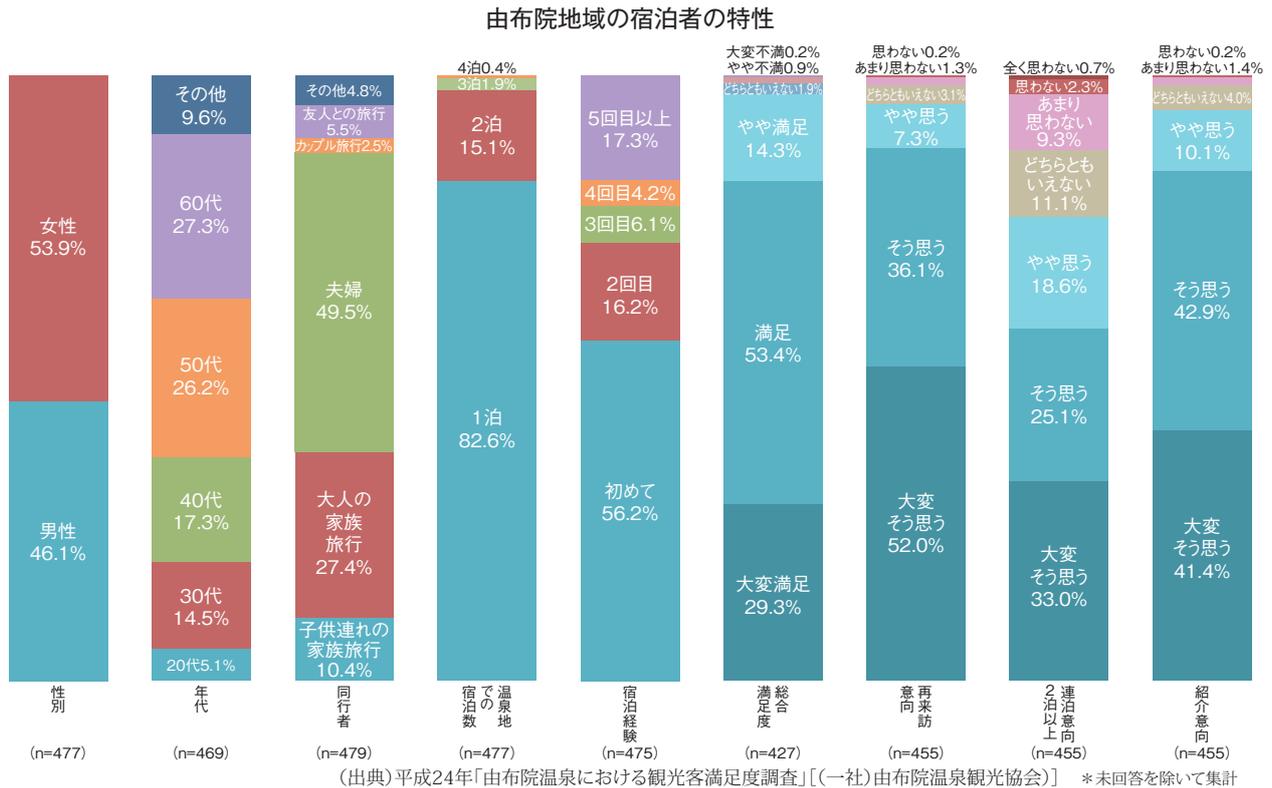
(出典) 大分県観光動態調査 *従業員10人以上の一部の施設



〔由布市の旧3町及び各地域の観光客数と居住地〕 由布市旧3町及び各地域の観光客数は、平成16年のデータによると、旧湯布院町が由布市の観光客総数の86.4%を、由布院地域が由布市の宿泊客数の90.0%を占めます。旧湯布院町は、全国から観光客が来訪しており、福岡県が24.1%、関東地方が16.0%、大分県が12.9%、その他九州、近畿地方が12.3%を占めます。庄内町は、福岡県、大分県、その他九州の合計が、挾間町は、大分県が90%以上を占めます。



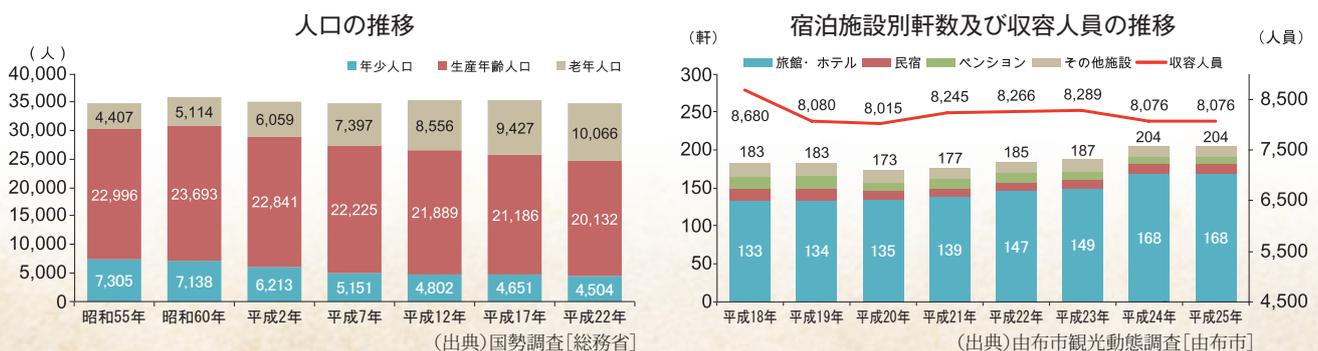
〔宿泊客（回答者）の属性と意識（由布院の一部の施設）〕性別は、「男性」が46.1%、「女性」が53.9%で女性がやや多いです。年代の上位3つは、「60代」、「50代」、「40代」。同行者は、「夫婦」が最も多く49.5%。宿泊経験は、「初めて」の人が56.2%、「5回目以上」のハードリピーターは17.3%を占めます。宿泊日数は、「1泊」が82.6%、「2泊」が15.1%。総合満足度は、「大変満足」が29.3%、再来訪意向、連泊意向、紹介意向は、「大変そう思う」が52.0%、33.0%、41.4%です。



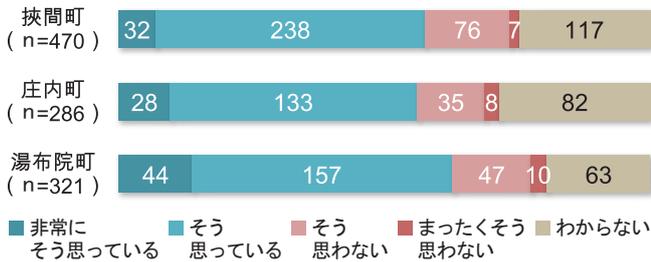
(2) 由布市の観光推進力

〔由布市の人口〕由布市の人口は、平成17年の35,264人をピークに減少傾向にあります。平成22年時点の人口は34,702人で、生産年齢人口比率は58.0%、老年人口比率は29.0%です。

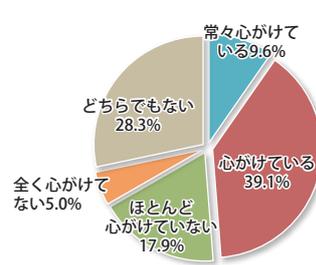
〔由布市民・住民の観光・交流に対する意識〕観光関連産業を地場産業として捉えている市民の割合は、湯布院町、庄内町、挾間町ともに約6割です。観光客へのおもてなしを心がけている市民は、由布市全体で48.7%、観光産業従事者と接点がある市民は、全体の33.5%です。



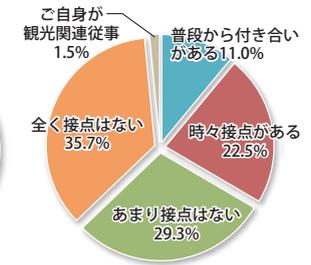
地場産業としての観光関連産業



観光客へのおもてなし (n=1,101)



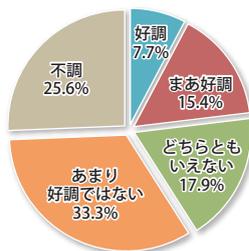
観光従事者との付き合い (n=1,123)



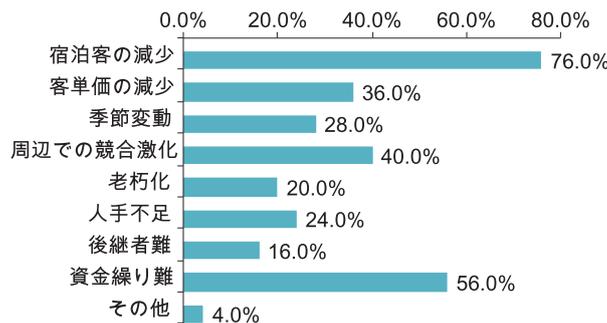
(出典)平成22年「由布市住民の観光に対する意識調査」【右、中央、左】[由布市、(財)日本交通公社]

〔観光・サービス施設（宿泊施設）の経営状況〕 宿泊施設収容人員は、平成18年に比べて平成25年は減少していますが、施設軒数は微増傾向にあります。宿泊施設の経営状況については、好調（「好調」「まあ好調」の合計）と回答したのが23.1%に対して、「あまり好調でない」が33.3%、「不調」と回答したのは25.6%です。経営上の問題としては、「宿泊客の減少」がもっとも多く76.0%、「資金繰り難」が56.0%。食材の仕入れ先の割合は、「由布市内」が57.7%、「県内」が35.0%、「県外」が13.8%でした。

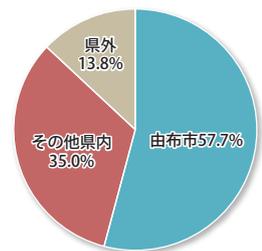
現在の経営状況 (n=38)



経営上の問題 (MA・n=25)



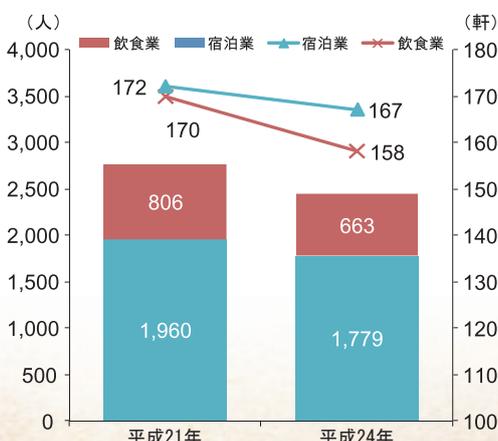
食材の仕入れ先 (平均・n=33)



(出典)平成22年度「由布市の宿泊施設に対する実態調査」【右、中央、左】[由布市、(財)日本交通公社]

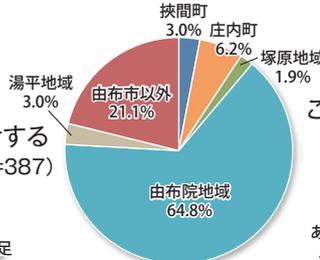
〔観光関連産業従事者の実態と意向〕 従事者の居住地は、「由布院地域」が最も多く64.8%。次いで、「由布市以外」が21.1%でした。従事者の仕事に対する総合満足度は、満足（「とても満足」「満足」の合計）が60.9%、現在の仕事への継続従事意向（「大変そう思う」「まあそう思う」）の合計は65.2%でした。

宿泊業、飲食店の就業者数、事業所数

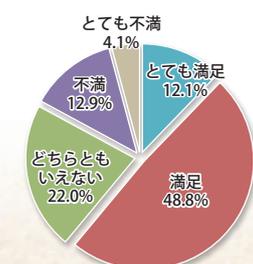


(出典)平成21年「経済センサス基礎調査」[総務省]
平成24年「経済センサス活動調査」[総務省、経済産業省]

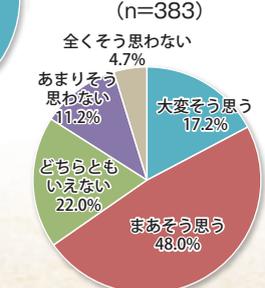
居住地 (n=369)



現在の「仕事」に対する総合的な満足度 (n=387)



これからも現在の仕事に従事したいか (n=383)



(出典)平成22年「由布市の観光関連産業従事者の観光に対する意識調査」
[由布市、(財)日本交通公社]

2. 課題の整理 — 転換期を迎えた由布市観光

(1) 前期の実施状況、新たな取組

前期は、由布市及び各地域の魅力向上に向けた事業、おもてなし向上に向けた人材育成事業を行いました。加えて、後期及び由布市の将来に向けて、由布市の観光推進体制の整備にも取組みました。前期に実施された主な取組（行政、民間による取組、関係部署による取組）は以下です。

実施された主な取組（一部）

取組	内容・進捗状況等
滞在型・循環型保養温泉地形成に向けた誘客促進	平成24年7月に発生した集中豪雨による風評被害等の払拭に向けて、由布市内で連泊滞在を促そうと、滞在日数に応じて市内で使える商品券をプレゼントするキャンペーンを実施しました。
地域魅力の発信強化に向けた情報媒体の刷新と新規作成	平成26年に、情報媒体を刷新し、市内の人々の暮らしぶりが伝わるパンフレットを作成。市内はもとより空港等にも配布しました。加えて、「挾間・庄内」の資源及び市場の類似性に着目し、一体で訴求する新たな観光エリアの形成を図るパンフレットも作成しました。
由布市への理解を深め、伝える人材の発掘、育成	平成26年に由布市と由布市観光協会は、市内のさらなる一体感の醸成と、市内一体のおもてなしを目指して、市内3町（湯布院、庄内、挾間）全域の魅力に精通し、次世代や客に伝えていく「おもてなし伝承師」育成事業を実施。地元講師による講習と各町での現場視察を通して各町に継承されてきた財産について理解を深めました。5回のワークショップに延べ25人が参加し、終了証を手に入れました。
観光地としての魅力向上に向けた事業の実施	由布市と由布市観光協会は、地域に内在する資源を磨き上げ、各地域の誇れる観光資源を作り上げる活動を支援し、観光地としての魅力を向上させる事業に対して補助金を交付する制度「とっておき地域資源づくり事業」を創設。各地域が主体的に提案する事業に対して支援を行いました。
観光の総合産業化の推進（由布市地産地消・ブランド化推進協議会の設置）	農業・商工・観光の各産業の相互連携により、地産地消と特産品ブランド化をテーマにして活動を進め、由布市として一体感を醸成し、さらなる地域の活性化を図ることを目的に、平成23年3月に「由布市農業・商工・観光の連携による地産地消と特産品ブランド化推進計画」を策定。計画に基づき新たな特産品の開発や、由布市の特産品や農産品を地元の観光業者らに知ってもらう商談会（笑談会）、パザールの開催等が行われました。由布市内の特産品を扱う新たな民間事業者も生まれ、徐々に取組が進展しつつあります。
観光推進体制の強化（観光事務調整連絡会議、庁内検討会、観光新組織準備室・推進室の設置）	由布市の観光推進体制を強化するために、行政主導のもと、「観光事務調整連絡会議」と「庁内検討会」を設置し、由布市内の各観光組織（7団体）及び関係部署の連携強化を図りました。平成26年度には、由布市商工観光課内に観光新組織設立に向けて「観光新組織準備室」を設置。民間からも人材を登用し、民間と行政との協働による新たな観光振興及び観光まちづくりを推進する組織とその体制について、官民一緒になって研究。それらを受けて、平成27年度には「観光新組織推進室」を設置し、観光新組織の事業推進に向けた更なる研究と組織設立運営を見据えた事業を推進しています。
観光交通おける課題解決に向けた取組と情報発信及び提供体制の拡充	由布市観光の核となる由布院、中でも由布院駅周辺を対象として、関係者で構成される観光デザイン会議を平成27年度に設立。「新たな滞在型循環型保養温泉地計画」を策定しました。長年の課題であった交通問題、新規情報発信拠点の設置と戦略的な情報発信及びそれらを通じた地域内、地域間での循環の促進等を図っていきます。平成27年7月には（一社）由布院温泉観光協会によって、由布院駅構内の観光案内スペースが拡充されました。
地域での豊かな時間の過ごし方の提案	ゆふいん音楽祭は、平成21年の第35回で一度区切りをつけられましたが、平成25年4月に湯布院「旅する音楽」(湯布院所縁のアーティストが出演する小さな音楽)が新たに開催されました。また、由布院駅では、歩行車天国を実施する等、新たな試みが行われました。塚原では、高原のクスギ林で1日限りのカフェ「コモレピカフェ」が開催され多くの来訪者が訪れるなど、新たな過ごし方が生まれてきています。
景観保全に向けた組織の設立、計画の策定、協力の開始	由布市観光の核となる由布院において、重要な由布岳の牧野の景観保全や後継者育成などを目的に「由布岳南山麓景観保全機構」が平成23年3月に設立されました。また、建物の色彩のルールなどを盛り込んだ「由布院盆地景観計画」が平成25年12月に施行されました。成長管理の概念を導入し、開発に関するルール等を定めた、旧湯布院町全域を対象とする「潤いのある町づくり条例」や、平成23年3月に増補改訂版された『ゆふいん建築・環境デザインガイドブック』に沿ったルールを計画では定めています。由布川渓谷においては、「由布川渓谷周辺美化清掃協力金」(一人百円)制度の導入が開始され、自然環境の保護・美化・環境の整備が進められています。

（２）計画課題の再整理

由布市観光は、平成20年を境に宿泊客数、日帰り客数、観光消費額ともに大幅に減少した状態にあり、観光地の発展過程からするとこれまでとは異なるステージに入ったことを示しています。

<由布市観光を取り巻く外部環境>

平成23年3月に発生した東日本大震災とその後の原発事故の影響は、以前より徐々に変化していた日本人の旅行や観光、その背景にある人々の生活（安全安心、人との付き合い等）に対する価値観をさらに変移させるきっかけとなりました。こうした変化は、わが国全体の人口減少と少子高齢化といった社会構造の変化とともに、由布市の観光にとっても少なからず影響を及ぼしているものと推察されます。地域においてはこうした変化の兆しに対する意識を共有する必要があります。

また、九州内の観光構造は、ここ数年で大きく変化しています。平成23年3月には、新幹線鹿児島ルートが全線開通しました。平成25年10月には、クルーズトレイン「ななつ星in九州」が運行され、九州7県の各個性を表現しつつ九州が一体となる気運が醸成されました。大分県内にあっては、平成25年5月に国東・宇佐の「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」が世界農業遺産として認定されるなど、世界水準で評価される地域が出現しています。さらに、平成27年3月には、東九州自動車道が宮崎まで全線開通しました。高速交通体系の整備など、こうした環境の変化は、由布市の観光市場に影響を与えているものと推察されます。外部の環境変化を早期に察知し、地域の推進力として取り込むことが求められます。

<由布市観光推進に向けた内部環境>

由布市の観光は、全国的に知られている由布院温泉だけではなく、湯布院地域（塚原地域、由布院地域、湯平地域）そして庄内地域、挾間地域で構成されています。合併を契機にそれぞれの機能と役割を改めて再構築することが重要です。

そして、これまで営々と築き上げてきた由布院というブランドを由布市としてどう有効に活用していくか、由布岳を背景とした農村風景をどう保存育成していくか、また湯の坪街道にみられる日帰り観光客のオーバーユースと交通対策、景観形成の問題、不足する観光インフラの整備などの地域課題をどうしていくか、観光関連産業に従事する人材をどのように確保・育成していくのか、そして由布院に追いつけ追い越せと取り組んできた全国の観光地との競争をどう考えるか、さらには観光推進組織の充実と人材の育成、観光財源の問題など課題は山積しています。特に、計画策定後の変化として、インバウンドの急増が挙げられます。国内外の観光客をどのように捉えて、どのような対応を図っていくかが重要な課題となっています。

以上のような内外の環境変化を踏まえて、各種課題を解決しつつ、由布市としてどのような魅力を観光客に提供し、持続可能な地域を形成していくのが一番の課題となります。

前期の取組（一部）



「ななつ星in九州」の運行



インバウンドの増加



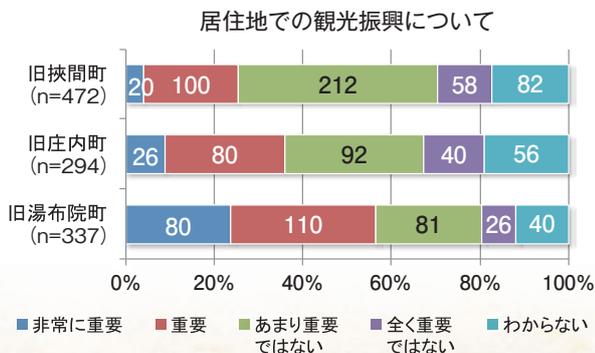
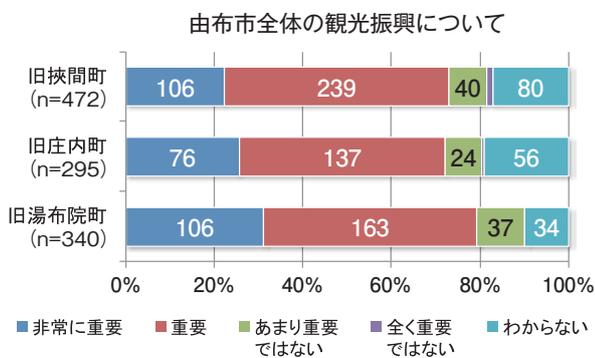
（出典）由布市

1. 観光推進の基本的な考え方

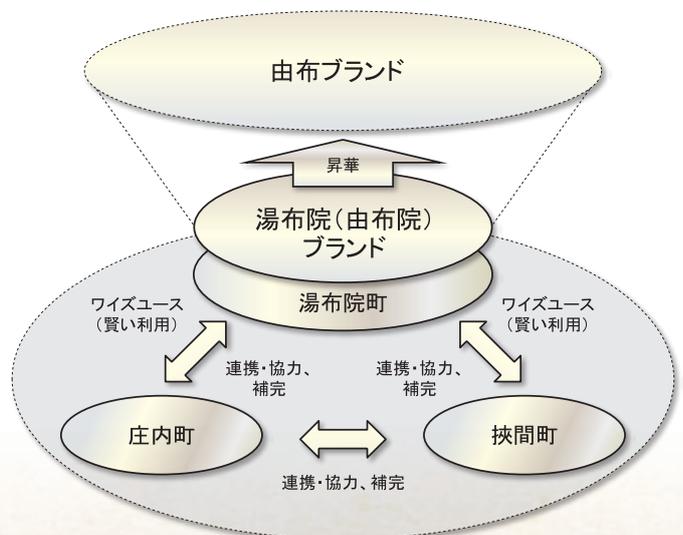
住民意識調査によると、観光振興に対する意識は、居住地域（旧挾間町、旧庄内町、旧湯布院町）による温度差はあるものの、「由布市全体にとっての観光振興」は居住地に関係なく重要視されています。また、観光振興による地域活性化への期待も大きく、今後の取組をみても、「由布市の観光は、行政と各観光施設や民間事業者が連携して、積極的に取り組むべきだと思う」という肯定的な意見が多くを占めています。

こうした住民の期待に応えるためには、各地域それぞれがその地域の特性を磨き上げるとともに、既に地域主導によるまちづくりの先進地として全国的に知られる湯布院（由布院）地域のブランド力をワイズユース（賢い利用）しながら、地域間相互の交流や連携を一層促進することで、地域を超えた相乗効果を創出する循環型の仕組みを創り出し、“新たな由布市観光”（由布ブランド）を形成していくことが重要です。

そのために、由布院温泉をはじめとした全ての地域が“その魅力を構成する要素の全てを改めて見つめ直し、磨き上げ、活用して、地域を超えた相乗効果を創出する仕組みづくり”を行います。そして、由布市の新たな魅力を、自信と誇りを持って内外に発信していきます。



「湯布院（由布院）ブランド」の
ワイズユース（賢い利用）と、
地域間相互の連携・協力、補完による
「由布ブランド」への昇華



（出典）平成22年度「由布市住民の観光に対する意識調査」[由布市、(財)日本交通公社]

「湯布院（由布院）ブランド」から「由布ブランド」へのヒント



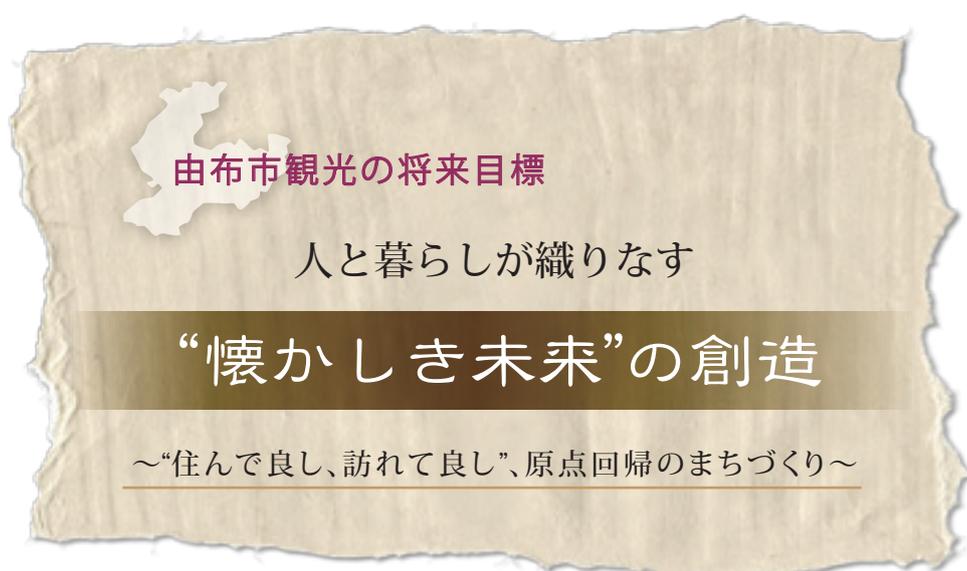
※委員会、部会での委員の発言、ヒアリング調査、文献調査等をもとに作成した。

2. 将来目標と基本理念

(1) 将来目標

由布市には、由布岳や黒岳等の自然資源から、温泉場や農村風景、神楽等の歴史文化資源まで、多種多様な観光資源・地域資源があります。また、由布院温泉には、住民主導で“住んでよし、訪れてよし”のまちづくりを進めてきた実績があります。昔から続く農村としての生業や暮らしを大切にしつつ、内外の交流や連携を通じて、住民自らが新しいものを生み出してきた、そうした活動も地域特性の一つです。

このような地域の様々な特性を踏まえつつ、市民が一体となって観光振興を進めていくために、行政の関係者や観光関連産業従事者だけではなく、農業をはじめとした他産業の従事者、そして一般の市民にも分かりやすく、愛着の持てる「将来目標」を以下のように定めます。



将来目標には、

「長い時間をかけて風土の中で培われてきた地域の“履歴”に耳を傾け、地域本来の姿を見失うことなく、

“住んでよし、訪れてよし”のまちづくりを、

原点に立ち返り、弛まなく行ってゆく。

内外との交流を重ねて行く中で、

“懐かしき未来”～懐かしくも新しい、人々が心に思い描く、安らぎの郷～を
 実現していく。」

という決意を込めている。

(2) 基本理念の設定

由布市の観光ポテンシャルや観光振興に向けたこれまでの取り組み、マーケット（市場）ニーズ等を総合的に捉え、今後の魅力ある由布市観光を展開していくための基本理念を次の5つに整理します。

基本理念

自然の恵みに感謝し、

生業を尊ぶ由布市観光

由布市観光の本質は、自然の恵み(由布岳や黒岳の眺め、四季折々の田園風景、美味しい水、豊富な温泉等)に感謝し、生業をはじめ、人、空間、時間、風習・慣習、歴史、文化などを含めた“暮らし(生活)そのもの”を大切にし、ありのままの魅力を訪れる人と分かち合うことにあります。

由布市では地域風土に根ざした生業として長らく農業が基幹産業でしたが、農業者の高齢化と担い手不足等により、農業単体ではかつての勢いはみられません。現在は農業に代わり第三次産業が地域経済の中心を成し、農村の風習や慣習も少しずつ薄れ、農業が基幹産業であった頃の“由布市らしさ”も段々とその色を失いつつあります。

しかし一方で「住民意識調査」では、由布院盆地の農業に期待される機能として「歴史的・文化的な景観資源」、「環境の保

全機能」が上位を占め、由布院盆地の農地の消失については、「(積極的に)保全・活用していくべきだ」との意見が6割を超えています。

由布市では、これまで地域の個性を彩ってきた農業をはじめとして商業や工業、観光産業などの地場産業を、地域の大切な“生業”や“暮らし(生活)”として将来にわたり尊び、観光振興を図っていきます。



基本理念

2

個性ある人、個性あるまちを

育む由布市観光

由布院温泉では「ゆふいん料理研究会」により、まち全体の食のレベルアップが図られています。同研究会では「料理人同士、自らが持つ技術や考え方を伝えることで、料理の質が向上するばかりか、料理人が“自らの料理”を表現すること」にも繋がっています。こうした新たな価値を見出し、表現を磨くための場を設けることは、各地域の個性を育む際にも通じるものと思われれます。

今後、各地域が個性を磨き上げ、その魅力を高めていくためには、挾間地域の「挾間の顔づくり事業」のように、自らの地域をつぶさに見つめ直すとともに、他の地域に足を運び、お互いの地域について深く学び合い、常に切磋琢磨しながら成長していくことが大切です。こうして磨き上げた人や地域の魅力は由布市の貴重な財産・誇りとなり、他の観光地にはない

“深み”をもたらすこととなります。

由布市は、個人や地域の特性を尊重し、それらを公開、共有、認め合う場(機会)を提供していくことで、さらに個性豊かな人やオリジナリティー溢れるまちを育てていきます。



基本
理念

3

内と外の“交流・出会い”を

設える由布市観光

由布院温泉では全国に先駆けて観光と農業の連携に取り組んできました。塚原温泉でも「塚原高原農観連携プロジェクト」が動き出しつつあります。また、由布院温泉は「湯布院映画祭」や「ゆふいん音楽祭」、湯平温泉は「ツール・ド・湯平サイクリング大会」、庄内地域は「庄内神楽祭り」、挾間地域は「納涼花火大会」の開催など、内外との交流・出会いを通じて、特に外からは“人脈、情報、芸術・文化、新たな価値観、刺激、感動、活力”な



ど、様々な糧を得て暮らしてきました。

由布市は、市内の地域間連携や、市外の人々との交流・出会い—様々な生業の連携、世代を越えた交流など—を通じて、“つながり”や“ふれあい”が生まれる場(機会)を積極的に創り出していきます。

さらには、そうした場(機会)を設えることで、“ヒト”“モノ”“コト”の循環システムを構築し、由布市観光の振興を図っていきます。



基本
理念

4

真心でもてなす由布市観光

“真のおもてなし”でお客様をお迎えるには、常日頃から訪れる人のことを心から大切に想い、その気持ちを“できることからでも少しずつ表現していくこと”が重要です。

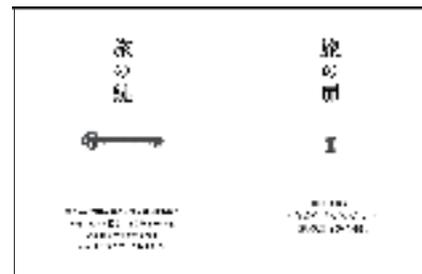
「住民意識調査」でも、これからの由布市観光との関わりにおいて「日々の生活の中で、地域環境の整備(清掃・植栽・景観美化等)に取り組みたい」との回答が多く得られていますが、こうした“想い”を観光関連産業従事者ばかりではなく、由布市



に暮らす一人ひとりが持ち続けることが大切です。

そして、一人ひとりが“自分なりの価値観”(ホスピタリティー)に基づき、自らがその時に一番大切だと思うものを、自信を持って堂々と行動に、形に表現していきたいです。

由布市は、“真心のおもてなし”が感じられる環境整備などを着実にやっていくとともに、“真心でもてなそう”とする人や団体の取組を積極的に支援していきます。



由布院温泉滞在中に各種おもてなしサービスを、宿泊している旅館以外でも無料で受けられるカードを、宿泊客に配布しています(一部有料も有り)。我が家の扉を開けた時の安心感や、未知の扉を開ける好奇心を感じていただくため、心からのおもてなしを表現しています。

基本理念 5

古きを大切にし、
新しき“風”を起こす
由布市観光

由布市では、これまでも生業を大切にしまちづくりを行ってきたことで、庄内地域には日本の原風景とも言える農村景観、人の営み、暮らしぶり、生活文化が色濃く残っています。

一方で、湯布院地域の「キリシタンの墓」、「(塚原の)塚」、挾間地域の神社仏閣などをみても明らかのように、由布市は古くから国内外の諸思想や文化、芸術に寛容で、それらを積極的に取り入れ、その理解・変容を通して暮らしを豊かに発展させてきました。

由布市住民のこうした文化や芸術などに対する思いは脈々と受け継がれ、今も由布院駅のアートホールでは様々な企画展が行われ、塚原地域には陶芸や木工芸のアーティストが移り住み、創作活動を行っています。由布市は歴史的に文化や芸術が根付きやすい環境にあるとも言えます。

由布市は、今後も、今日まで受け継がれてきた古き良き風習や慣習、まちの佇まい、醸し出される暮らしぶりなどを大切にしつつ、内と外との交流を通じて新しい“空気”(人脈、情報、芸術・文化、新たな価値観、刺激、感動、活力等)を取り入れることで、地域内外に新しき“風”を起こしていきます。



3. 計画の体系

5つの基本理念のもと、将来目標を達成するために、3つの戦略と25の戦術(施策)を設定します。





由布市観光基本計画の全体像



由布市観光の
将来目標

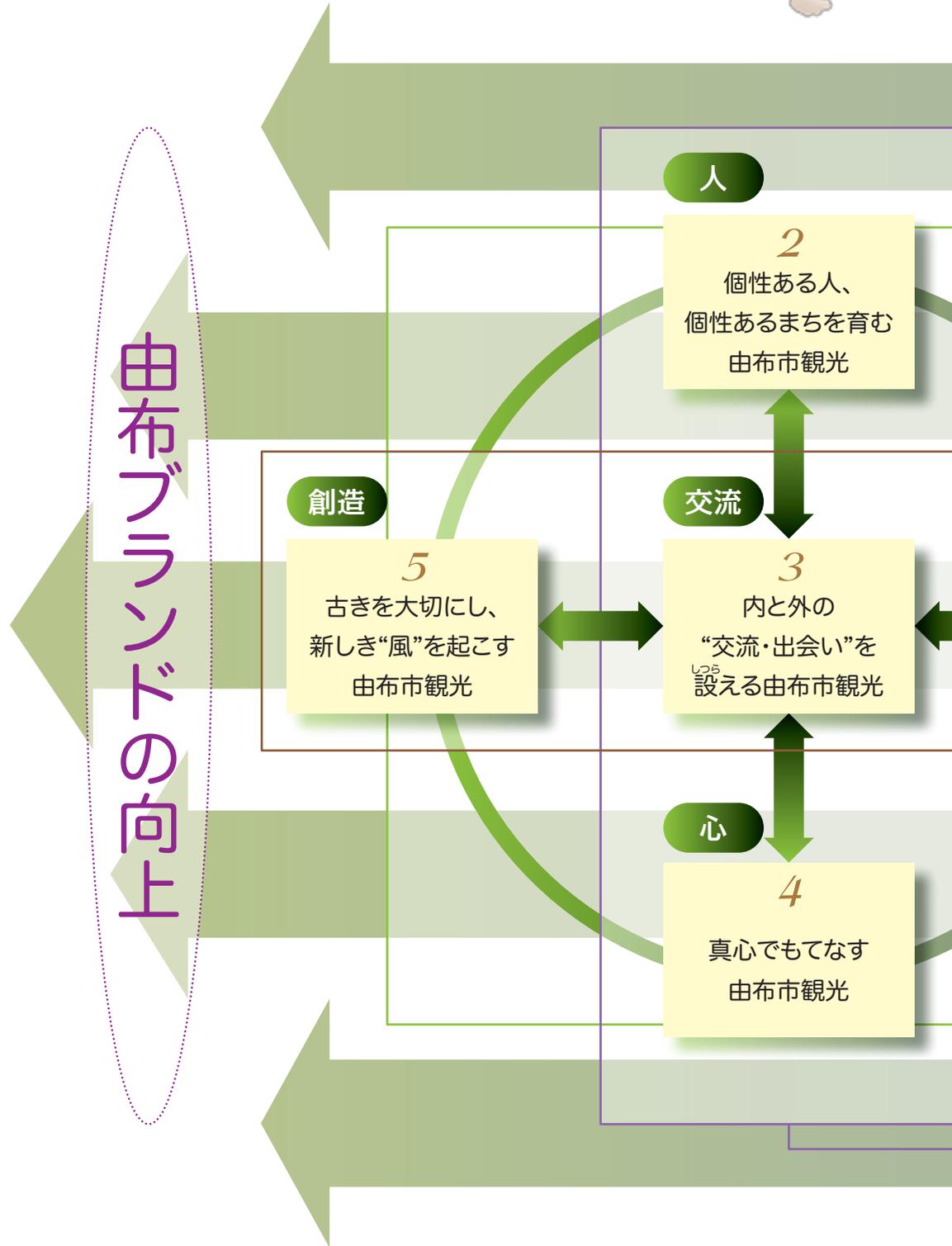


基本理念

Yufu

人と暮らしが織りなす
 “住んで良し、訪れて良し”、原点回帰のまちづくり
 “懐かしき未来”の創造

由布ブランドの向上



基本戦略と 事業例

生業

1
自然の恵みに感謝し
なりわいとうと
生業を尊ぶ
由布市観光

a 人と暮らしを大切にし、“懐かしき未来”を感じさせる魅力づくりに取り組む

1. 地域資源の発掘、活用に関する事業
2. 農地・森林資源等の保全・活用に関する事業
3. 「着地型旅行商品」の開発と販売促進策の検討に関する事業
4. 観光イベントの連携と新規共同イベントの開発に関する事業
5. 特産品、地産地消メニューの開発と販売・PRに関する事業
6. 「宿泊滞在プラン」等の開発・提供事業
7. 環境にやさしい滞在型保養地の創出に関する事業
8. 観光産業の構造改革に関する事業
9. 観光インフラの整備に関する事業
10. 観光交通に関する事業
11. 観光案内サインに関する事業
12. 一次交通アクセス整備に関する事業【発地～由布市】
13. 二次交通アクセス整備に関する事業【由布市内】

b 内と外を結ぶコミュニケーションを促進する

1. 観光地域情報の取得、共有化と発信に関する事業
2. 観光案内所のネットワーク化と整備に関する事業
3. 観光マーケティング関連事業（顧客満足度調査（CS）等）
4. 誘客プロモーション事業
5. 災害時の情報提供等に関する事業

c 個性ある人づくり・組織づくりを推進する

1. 「由布市宿泊滞在・旅先案内人」の育成事業
2. 「由布市観光ガイド」の育成事業
3. 観光関連産業従事者のスキルアップ事業
4. 従業員満足度（ES）の向上に関する事業
5. 観光推進組織の育成・強化に関する事業
6. 全市をあげて観光まちづくりを推進する仕組みの構築に関する事業
7. 観光財源の確保に向けた事業

※事業については、「由布市観光事務調整会議」や「庁内連絡会」等の場で、官民一緒になって議論をしながら、具体的内容を決めて進めていきます。

4. 重点的に推進すべき総合プロジェクト

当面の間（10年間の計画期間のうち前期）、由布市として、重点的に推進すべき10の総合プロジェクトを整理しました。

まずは、こうした総合プロジェクトを先行的に実施していき、その実施状況や効果を検証していく中で、さらに他の施策との連携を図っていきます。

10の重点プロジェクト

I. 宿泊施設活性化プロジェクト <宿泊施設の個性化を追求>

各宿泊施設が、食、おもてなし、情報発信等において、“由布市らしさ”を表現し、個々の宿泊施設自体が魅力ある目的地となるよう個性化を追求していきます。また、そうしたお互いの個性（魅力）を宿泊施設間や市民で共有するとともに、宿泊客にも各宿泊施設の個性をより深く感じてもらえるよう、積極的にPR、情報発信し、宿泊・滞在につなげていきます。加えて、市場動向も踏まえた施設の経営改善に資する事業を進め、地域全体として宿泊魅力を向上させていきます。

II. 農村風景保全・活用プロジェクト <田園風景や小川などを戦略的に見せる>

“懐かしき未来”を感じさせる田園風景や小川などの水、塚、里山の風景を、情報媒体や観光案内、ガイド等を通じて積極的かつ戦略的に観光客に見せていくとともに、地域外から農村風景の保全に対して協力を得られる具体的な仕組み（環境協力金徴収や基金の設置等）を構築していきます。

III. 観光交通マネジメント推進プロジェクト <多様な“歩く環境”を提供>

由布市の魅力をより深く感じてもらうための“おもてなし”の一環として、「観光交通計画」を策定し、観光交通による渋滞緩和や通過交通排除、市内での観光客の分散と市内移動手段の確保等を行います。そして、観光客・住民双方に対して、まち歩き・畦道や高原散策・山登りなど多様な“歩く楽しみ”を提供できる環境の整備等を図ります。

IV. 農商工観連携推進プロジェクト <“地産”地消から“地消”地産へ>

農産物の“生産地”としての由布市の魅力や強みを活かす視点から、由布市内の観光・商工・農業関係者の“ビジネスマッチングの場”を設け、地域内流通の促進（域内消費の拡大）や農産物加工品等の開発を行います。さらに、“消費地”としての湯布院地域の魅力を認識する視点から、湯布院地域という場で消費する（食べる、購入する、時間を過ごす等）ことの意味や価値を再構築し、湯布院地域らしい消費のあり方を創出していきます。

V. 着地型プログラム・商品造成、文化・芸術創造プロジェクト

<身近な暮らしを大切にし、文化性・芸術性を高める>

地域固有の資源を有効に活用し、人との交流を通じて由布市ならではの魅力を観光客、住民双方に伝える着地型プログラムづくりに取り組むとともに、由布市内に立地する美術館をはじめとする各種文化・芸術施設の連携を図り、これまでにない新たな魅力を創出し、発信していきます。

VI. マーケティングに基づく誘客プロモーションプロジェクト

＜まちづくりに加えて積極的な魅力発信を＞

これまで湯布院地域では、民間と行政とが、それぞれの役割のなか、協働で観光まちづくりに取り組んできましたが、合併を契機として、さらに行政と民間が一体となって、各地域がそれぞれの魅力を磨きつつ、由布市全体として、科学的データに基づくマーケティングを通じて戦略的かつ効果的な魅力発信（誘客プロモーション）を進めていきます。さらに観光推進組織の強化・充実を図り、外部で発信される情報の質をチェックし、できる限りコントロールしていきます。

VII. 地域イメージ構築プロジェクト <ストーリー性のある観光連携の推進>

由布市内各地域の魅力、個々のコンテンツの磨き上げを基本としつつ、内外に対して訴求力を有する地域固有のストーリーのもとで観光連携を推進、促進します。体験や経験価値を高める過ごし方・サービスの提供及び情報発信活動等を行い、地域イメージを再構築していきます。

VIII. 国際観光地形成プロジェクト <広がる外と内の交流による調和>

急増するインバウンドへの即時的な対応として、地域や施設での受入対応、観光人材の育成、多言語標記や観光案内、情報発信（災害時を含む）、誘客活動等を進めます。また、中長期的視点から、国内外の観光客の位置づけを検討し、それに基づく地域、来訪者の文化に対する相互理解の促進等を図りながら、国内外の人々が来訪する国際観光地を形成していきます。

IX. 快適な公共空間及び拠点整備プロジェクト <地域内外へゆとりある空間を提供>

これまで湯布院地域では、行政が整備、管理してきた公共空間に加えて、民間施設が独自に投資して整備、確保してきた緑地や施設を、公共利用可能な場として地域内外に提供してきました。成熟した社会において、より豊かで充実した暮らしや滞在を地域内外の人々に対して提供していくために、ゆっくり休憩できる居心地の良い滞在空間や安心して歩ける歩道等の整備を今後も段階的に進めていきます。また、既にある公共空間の利用を促進し、より地域の魅力を感じてもらうために、情報発信を行う拠点や情報通信アクセス環境（Wi-fi等）の整備等も進めていきます。

X. 観光就業地魅力向上プロジェクト

＜働きたい、働き続けたい観光産業及び観光地域の形成へ＞

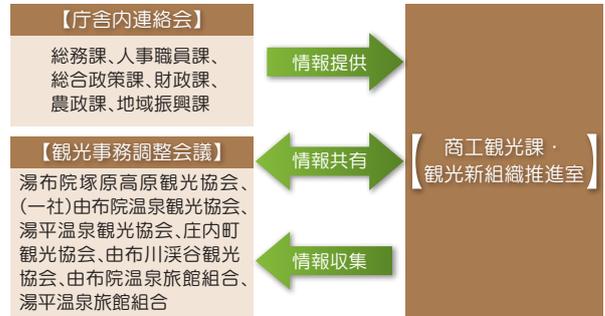
由布市の地場産業であり基幹産業の一つである観光関連産業を今後も安定的に維持、継承していくために、観光客受入において必要となる観光人材を、地域内外から戦略的に確保、育成していきます。そのために、個々の事業者の努力を越えて、地域として観光人材が働きやすい環境づくりに資する事業等を行い、就業地としての由布市の地位も高めていきます。

※活動財源については、別途検討を行います。

※こうした総合プロジェクトの推進にあたっては、「由布市観光事務調整会議」や「庁内連絡会」等、官民一緒になって議論を重ねて、具体的内容を決めていきます。本計画は、地域が動きながら考え、状況に応じた最適な事業を行う“マネジメント型プラン”と言えます。

1. 推進体制の段階的整備

変化の激しい現代にあっては、10年間という長期的視点に立った計画推進及び施策運営には柔軟性が求められます。特にプロジェクトの詳細検討、執行に至っては、継続的に観光関連事業者や住民の意見を反映できる仕組みが大切です。広く関係者による諸事業の『企画検討・検証の場』を設置し、定期的に進捗状況の検証を行っていくのと同時に、上記で企画検討された事業を実行に移す『実行部隊』も必要となります。そこで大きく以下の二つの段階に分けてプロジェクトの推進体制を充実させていきます。



【第一段階（平成23-26年）】

既存団体の連携強化による全市・官民一体の体制の構築

● 行政や既存の各地域の観光協会、関連団体（旅館組合、農協、商工会、NPO等）がそれぞれの立場で力を発揮しながら、相互の連携を従来以上に密にして計画の推進につなげるために、観光推進組織の事務担当者で集まる「観光事務調整会議」（平成25年）と観光を総合産業として捉えより連携を進めるための「庁舎内連絡会」（平成26年）を設置しました。その中で「由布市における観光振興の意義と必要性」に係わる認識の共有化を図っています。

【第二段階（平成27-32年）】

観光振興及び観光まちづくりを強力に推進するための役割分担及び新たな観光推進組織の設立

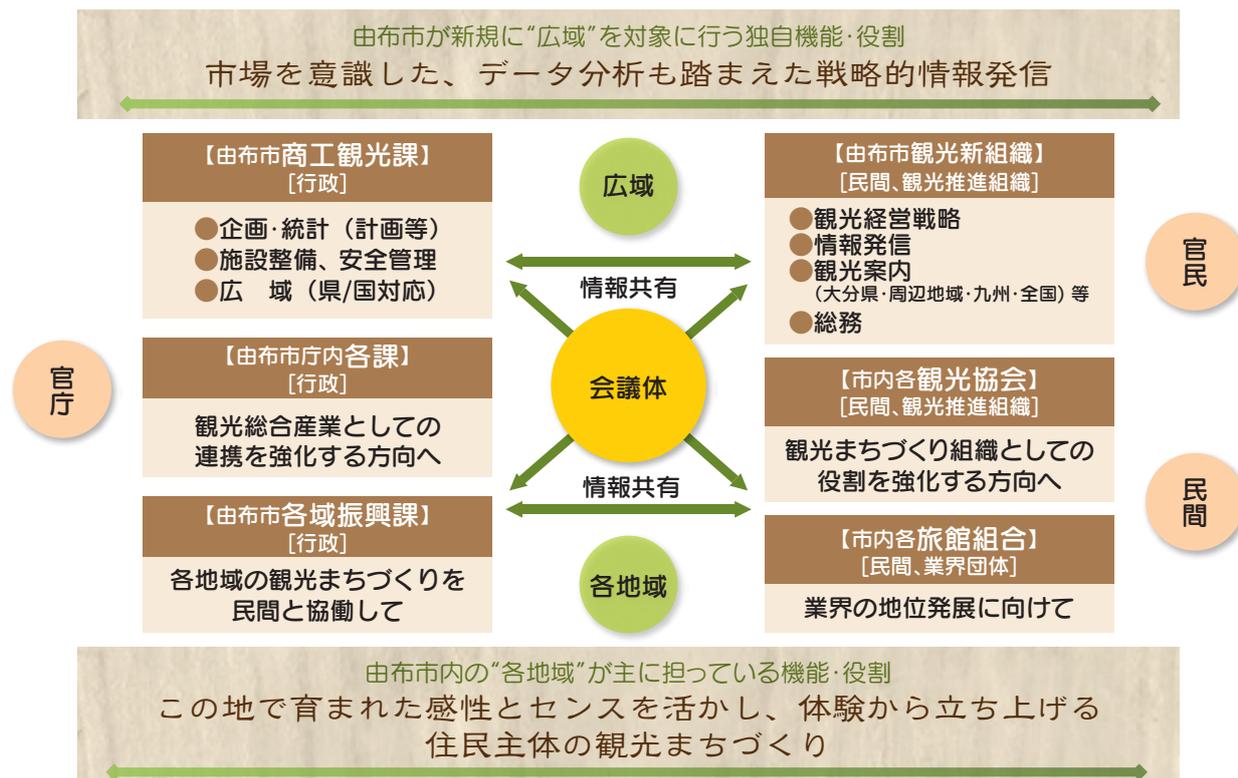
● 第一段階において構築した全市一体・官民一体での体制のもと、より観光推進体制を強化するために、5つの観点から役割分担を明確にし、由布市全体の観光推進体制を拡充していきます。そして、行政主導のもと、その中核となる観光新組織を民間組織と一緒に設立します。

由布市の観光推進体制の拡充への視点

5つの観点	これまで	これから
1. 官民の役割分担の明確化	官民、共に一緒に	官民で役割分担 - 官は、企画・統計・施設管理・安全対策等 - 民は、情報発信、広報、販促活動等
2. 広域の観光推進組織と各地域の観光推進組織の役割分担の明確化	広域の観光推進組織の役割の芽	広域と各地域の観光推進組織で役割分担 - 広域は、主に市場に対応するマーケティングとプロモーション - 地域は、主に住民主体でのまちづくり、魅力づくり
3. 各地域における観光協会と旅館組合の役割分担の明確化	観旅一体	観光協会と旅館組合で役割分担 - 観光協会は、地域の観光まちづくりの推進 - 旅館組合は、業界団体として地位向上、発展に向けた取組の推進
4. 地域として求められる観光機能の拡充	魅力づくり受入体制づくり（勤と経験、感性）	魅力づくり受入体制づくり（勤と経験、感性） + 情報発信等（科学的データを根拠） - 科学的データにもとづく市場に対する情報発信及び情報発信に適う、付加価値を有する観光商品づくり（機能を付加）等
5. 観光部門を越えた総合性、観光総合産業の視点の強化	主に観光部門	観光部門 + 他部門（農業、商工等） - 観光総合産業の視点での取組み（機能を付加）等

●設立に向けては、由布市商工観光課内に観光新組織に関する室を設置し（「観光新組織準備室」（平成26年）、「観光新組織推進室」（平成27年））、由布市の観光推進体制及び観光新組織の望ましいあり方について調査研究を行った上で、法人格を有する組織を設立し、計画の実現に向けて各種事業を強力に推進します。同時に、各種事業を効果的に展開できる有能な人材と財源を継続的かつ安定的に確保していくこと等についても引き続き検討していきます。

由布市の観光推進体制



各組織の役割分担

組織名	各組織の主な機能	各組織の主要業務（役割）
由布市商工観光課 [行政]	<ol style="list-style-type: none"> 観光政策を観光新組織と連携して立案し、政策実現のため取組むこと まちづくり観光局及び各地域の施策実現の支援を行うこと 	<ol style="list-style-type: none"> 「観光政策立案」（観光計画の策定と評価・見直し） 政策立案のための「観光統計の収集・公表」「民間事業者、住民の意見収集」「誘客事業」（国、県、広域対応） 法制度・仕組み・ルールの創設、運用 担当施策の実施 市内の観光施設・観光インフラの整備・管理 など
由布市観光新組織 [民間]	<ol style="list-style-type: none"> 行政の観光政策立案に協力し、施策を実現すること 由布市全体の観光まちづくり（マネジメント、マーケティング、広報、プロモーション）を科学的データに基づいて推進すること 	<ol style="list-style-type: none"> 由布市の観光政策に基づく施策の実施 市全体の観光に関する地域マネジメント業務（観光による効果を促進する地域間・産業間の推進） 市全体のマーケティング・広報・プロモーション業務 市全体の観光の品質管理 市全体の観光案内（市+周辺エリア+県、九州等） 独自事業（安定財源の確保に資する事業）など
各観光協会 旅館組合等 [民間]	<ol style="list-style-type: none"> 地域の観光まちづくりを推進すること 地域の施策を実現すること 地域に関するイベント開催業務 地域の観光関連業界等を取りまとめ、地域発展のための事業を行うこと 	<ol style="list-style-type: none"> 由布市の観光政策に基づく施策の実施 地域の観光まちづくり 地域の観光案内所の運営 地域の（観光客）受入環境整備（景観づくり、おもてなしなど） 地域に関する施設管理（指定管理） 地域に関するイベント開催業務 独自商品づくり など

2. 計画管理の仕組み — 評価・検証

本計画目標の着実な実現に向けては、由布市商工観光課と由布市観光新組織が中心となって、関係者とコミュニケーションを図りながら進めていくことが重要です。PDCAサイクル*を意識して、官民一体となって定期的かつ継続的に、計画の目的、目標を確認しつつ、その実現に向けた事業の進捗状況や結果、成果を把握、共有し、内外の環境変化や時代のニーズを的確に捉えて事業を改善、実施していきます。また、計画実現に向けて、第三者による助言、評価、検証も行う場を設置し、計画全体の効率的かつ効果的な推進を目指します。

具体的には、計画目標の着実な実現に向けて、以下のような指標（例）を設定しながら計画管理を行います。今後は、各指標に対する目標値の設定、目標達成に向けた事業の明確化、事業ごとの目標の設定などを段階的に行い、進捗状況の把握、管理を行います。

計画管理のための指標（例）

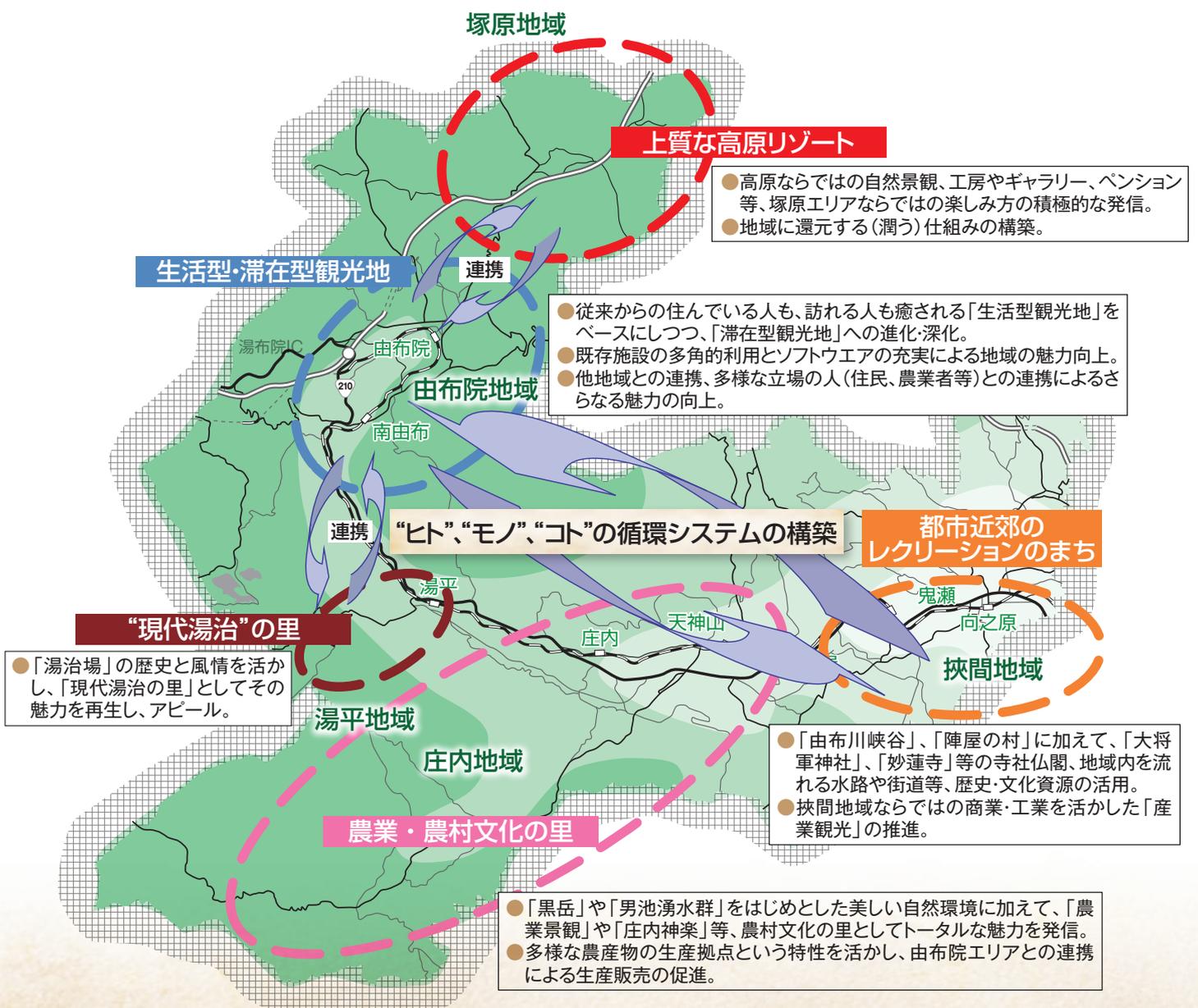
項目	指標設定にあたっての考え	指標（例）
主体別 基本指標	〔住民・市民：住んでよし〕 「住んでよし」の地域となるよう、“生活観光地”を目指してきた地域の文脈を踏まえ、生活者から見て地域の暮らしが独自性を有し魅力あるものとなっているかを測定するとともに、観光と共存できる状態であり続けるよう、観光が暮らしに与える正負の影響、観光の地域への寄与度等を測定します。	—住民から見た地域の独自性、魅力度 —観光の寄与度 —観光客数／定住人口比
	〔観光産業従事者：働いてよし〕 「住んでよし」の一部であり、暮らしの大半を費やす仕事により良いものであることが、地域で暮らし続けるためには大切です。また、観光人材を継続的且つ安定的に確保するためには、「働いてよし」となるよう、“観光就業地”としての地域魅力を高める必要もあります。観光産業従事者の満足度の向上は、観光客の満足度の向上にも寄与することが見込まれることから、働く人から見た地域に対する評価を測定します。	—雇用者数 —総合満足度、継続従事意向
	〔市場及び観光客：訪れてよし〕 観光を通じて地域を存続させるためには、主に地域外の人々から選好される魅力ある“観光目的地”であり続ける必要があります。そのために、市場及び観光客から見た地域に対する評価を測定します。	—認知度、来訪経験率 —観光客数（総数／宿泊／日帰り） —総合満足度、再来訪意向、紹介意向
滞在指標	住民と観光客の出会いと対話を深め、地域魅力を磨くためにも観光客に滞在してもらうことが重要です。また、一部の地域で発生するオーバーユース等の問題を解決するためにも、住民と観光客の過ごし方を近づける滞在化を進める必要があります。よって、滞在に資する地域の提供・サービスや観光者の滞在状況を測定します。	—滞在空間・宿泊施設数 —滞在プログラム数 —滞在時間、滞在泊数 —ビギナー率、リピーター率
循環指標	由布市全体が観光で裨益するためには、まずは住民自身がお互いの地域魅力を理解し紹介できることが大切です。住民が相互に魅力を伝えられる状態になることで、観光客の回遊も促すことができます。また、観光を総合産業と捉え、お互いの市場を理解し、様々な産業間、地域間を連携させていく必要があります。以上から、地域での循環状態を測定します。	—住民・市民にとっての観光の重要度 —住民の市内相互来訪率 —域内調達率（食材、雇用等） —観光客回遊率
産業・ 経済指標	由布市が存続していくためには、観光産業が地域経済に寄与するものである必要があります。よって、地域での観光客受け入れを担う観光産業の状態や観光客の消費による地域への経済効果等を測定します。	—産業別就業人口比率 —事業所数 —収容力、定員稼働率 —観光消費額・単価・観光GDP
豊かさ・ 創造指標	由布市が地域住民はもとより、外の人にとっても魅力的な暮らしをする地域であり続けるために、暮らしの豊かさを表すものや、まだ見たことのない未来の暮らしのあり方として創造、提起されたものを把握していきます。	—地域の豊かさを示すもの（ライブラリー数・蔵書数等） —新たに創出されたもの（モノ）・出来ごと（コト）等

*PDCAサイクルとは、Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の頭文字を揃えたもので、PDCAの流れで実行し、次の計画や事業の改善に活かす考え方、プロセスのこと。

今後、由布市観光の推進にあたっては、「挾間」「庄内」「塚原」「由布院」「湯平」の各地域が有するそれぞれの特性を踏まえた役割分担と連携のもとに魅力ある地域づくりを推進します。そしてテーマに応じた観光を利用者が選択して楽しめる構造へと転換を図っていく必要があります。

ここでは以下に示す地域の役割や地域間での連携を考慮しつつ、由布市の総体的な魅力づくりを図る上で、5地域が重点的に取り組むべき施策の方向性を示します。

1. “由布院地域”を核とした拠点周遊への対応や観光・サービス（ヒト、モノ、コト）の相互提供を通じて地域間ネットワークを構築する
2. 塚原地域や湯平地域をサブ拠点とした小周遊を形成する。
3. 特定テーマのもとに、各地域が連携する。





人と暮らしが織りなす

“懐かしき未来”の創造

～“住んでよし、訪れてよし”、原点回帰のまちづくり～

—由布市観光基本計画—

『由布市・観光発展策』

～“懐かしき未来”の創造～

<後期計画>

平成28年1月

発行：由布市 環境商工観光部 商工観光課

住所：大分県由布市湯布院町川上3738番地1

電話：0977-84-3111

※本計画の表題は、1924（大正13）年にドイツ流の滞在型温泉保養地づくりを指導した林学博士本多静六氏の提言「由布院温泉発展策」に倣い、観光を通じた由布市の発展を願って「由布市・観光発展策」としています。

